

帰学者調査

(全国医学部長病院長会議
地域医療に関する専門委員会)

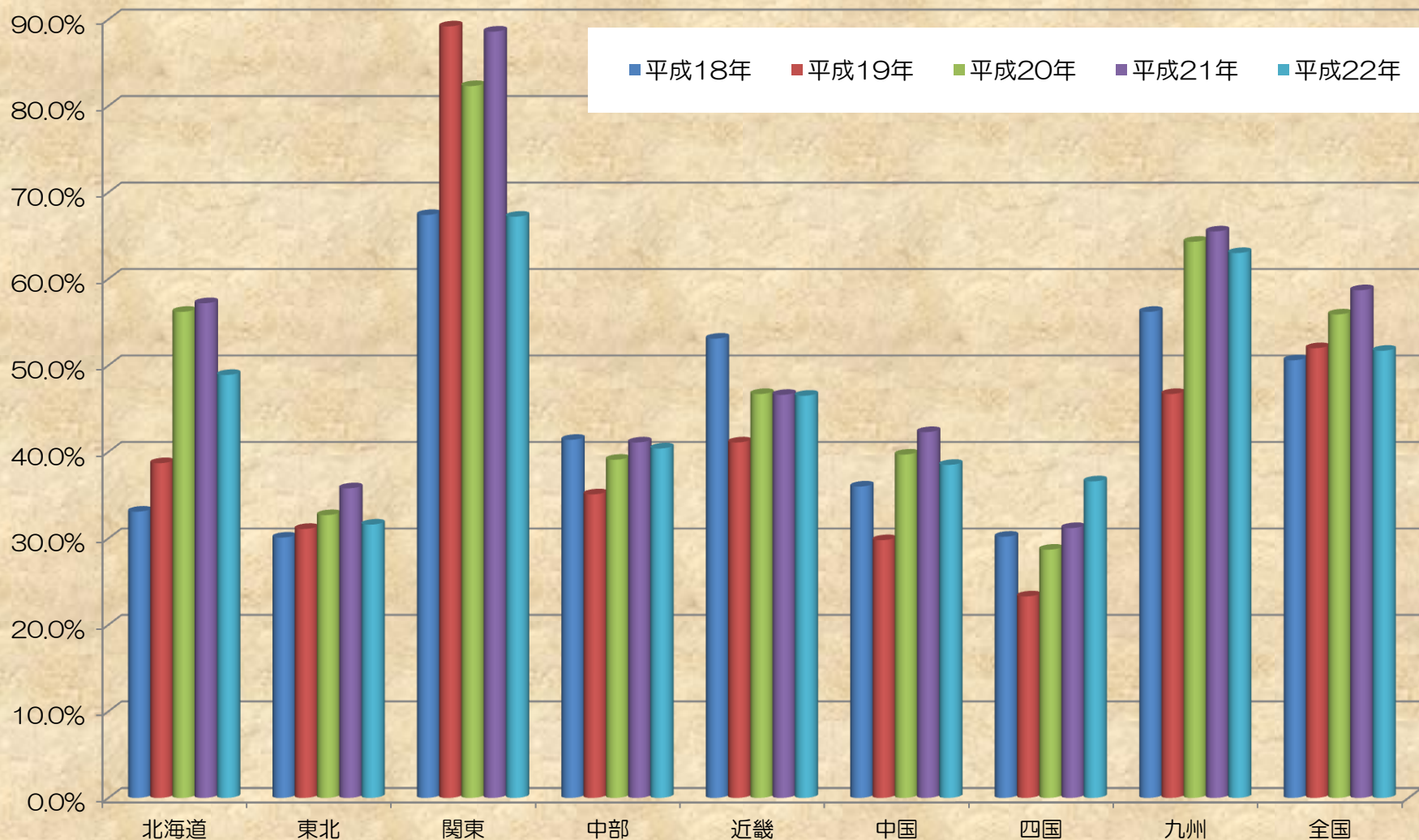
帰学調査について

- 全国医学部長病院長会議「地域医療に関する専門委員会」において、大学附属病院への研修医の帰学者※に関する調査を平成18年度より毎年実施

※ 帰学者：大学の診療科または講座に所属している医師

- 全国80医科大学・医学部のうち、防衛医科大学、自治医科大学、産業医科大学を除く77大学より回答

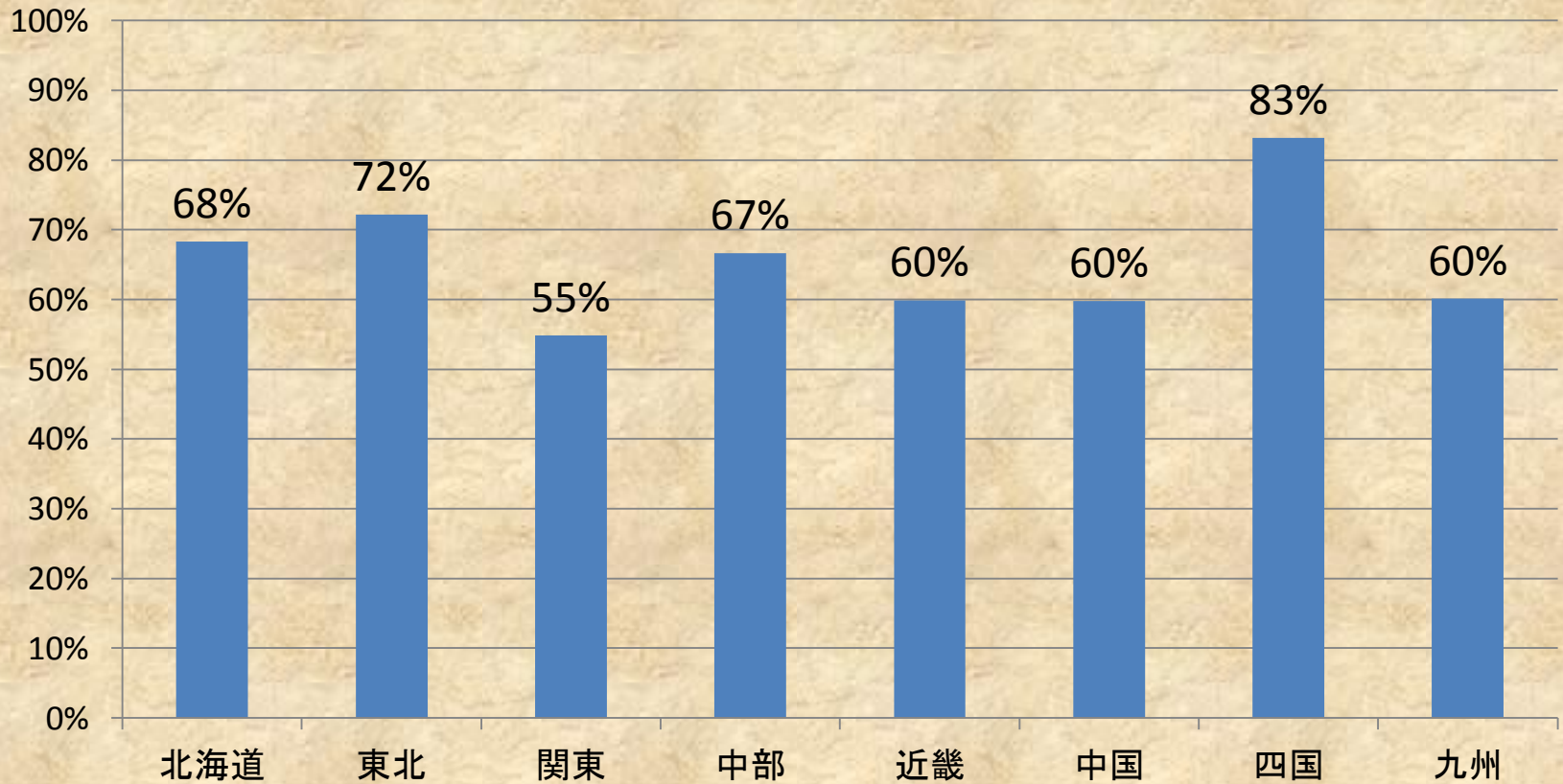
臨床研修修了者帰学状況(帰学率)



※帰学率・・・医師国家試験合格者数(2年前)に対する臨床研修修了者の大学への帰学者数(他大学卒業の医師も含む)の割合

帰学者の状況（自大学／他大学卒別）

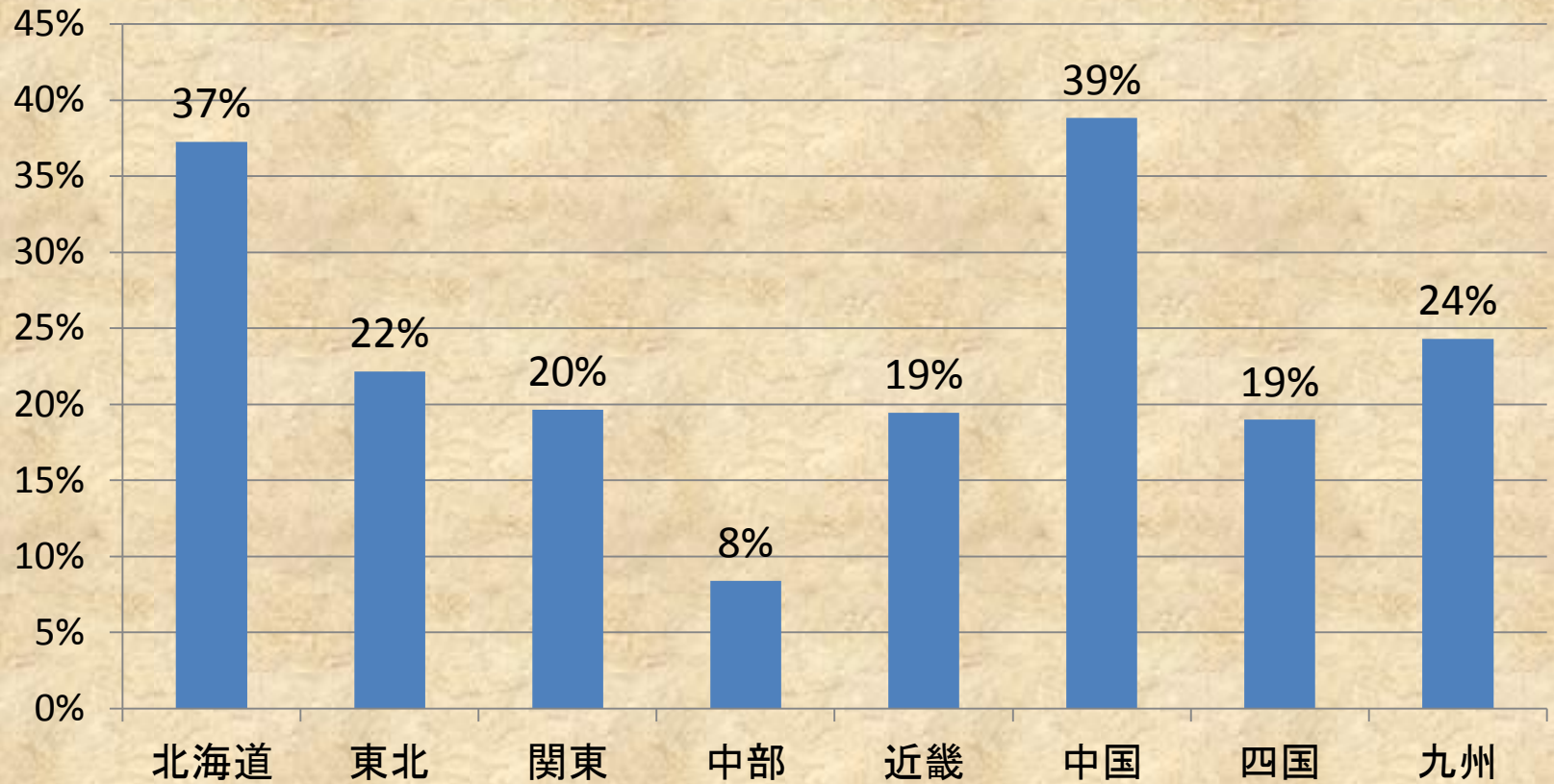
帰学者に占める自大学卒業者の割合



自大学卒者数	110	127	804	326	336	134	114	391
帰学者総数	161	176	1465	489	561	224	137	650

帰学者の状況（地域別／直接病院出向率）

帰学者に占める直接関連病院へ出向勤務する医師の割合



直接出向者数	60	39	288	41	109	87	26	158
帰学者総数	161	176	1465	489	561	224	137	650

医師養成の検証と改革実現のためのグランドデザイン
—地域医療崩壊と医療のグローバル化の中で—
全国医学部長病院長会議の立場から

全国医学部長病院長会議

平成23年12月

第2章 医学部(医科大学)の卒業後教育における検証とグランドデザイン (抜粋)

1. 初期臨床研修制度

2) マッチングの影響

マッチングは医学生を進路を流動化させ、医学生が真剣に進路を考えるようになり、また臨床研修病院では魅力作りとしてカリキュラムの充実や指導医養成に尽力するなどの**プラス効果も少なくないが、一方で卒前教育や医師の配置に深刻な悪影響も与えている。**

(1) 医学部臨床実習への影響

5、6年次に有名研修病院の見学、実習、面接に飛び回っている。
特に6年次には、多くの面接試験や見学、実習が実施されている。
→ **卒前の臨床実習教育が空洞化している懸念がある。**

3) 課題の整理と見直しへの提言

(2) 研修施設基準の見直し

広いバリエーションの疾患(重症から軽症、common diseaseおよび難病、さらに一次、二次、三次救急疾患など)を経験する必要があるが、現時点での制度設計にはこの視点が欠落している。
このためには、**研修の基幹となる病院は600床以上の病院とする。認定をはずれた施設は、積極的に研修協力病院となってもらい研修ネットワークを構築する案を提言している。**

* 500床未満の病院での研修は臨床研修医の23%に及んでいる

第2章 医学部(医科大学)の卒業後教育における検証とグランドデザイン (抜粋)

2. 専門医・高度専門医療人の養成

(3) 中核病院、地域病院と密なる連携

認定医、専門医養成には大学病院は魅力ある要請内容の構築を中核病院、地域病院と密なる連携をとりながら図る。**大学と附属病院は本来有している豊富な教育設備、先端医療設備と、それを応用できる有能なスタッフを大いに活用すべきである。**

さらに、中核病院、地域病院をローテートすることにより専門性を高めていくプログラムを構築すべきである。これによって、地域の医師寡少、偏在などの問題をある程度解決する方向を生み出すことができる。

(4) 専門医の適正配置

将来的には特定の地域や診療科の医師不足を解消するには、家庭医、病院総合医を含む各診療科別の専門医の地域および国家レベルでの適正配置数を検討し、それを具体化できるシステムを構築すべきである。心臓血管外科では、年間の手術数から適正な施設数、専門医数を割り出し、施設の集約、専門医数の制限に議論が進んでいる。

言わば、自主規制であるが、むしろ国家レベルで行われるべきである。専門医の適正配置はもちろん、医師の偏在についても検討すべきである。

第2章 医学部(医科大学)の卒業後教育における検証とグランドデザイン (抜粋)

2) 大学病院の地域医療への貢献

新臨床研修制度により、大学病院に残る医師数が減少し、そのため、地域への医師派遣機能が崩壊しつつある。

その中で、どのような地域貢献ができるかを、現在模索している段階にある。今後は、地域の病院への医師派遣に変わり、地域の医師の研修の場としての役割が重要になってくると思われる。

第3章 医学部(医科大学)の卒業前・後にまたがる教育における検証 とグランドデザイン

(抜粋)

5. 医学部新設による教育環境の悪化・質の低下への危惧

「医療崩壊」は単なる医師不足ではなく、地域格差、診療科間の格差、過酷な労働環境による勤務医の減少など、さまざまな問題が複雑に関連しており、医師養成増のみで解決できる問題ではない。

(4) 医師、診療科の地域偏在の是正

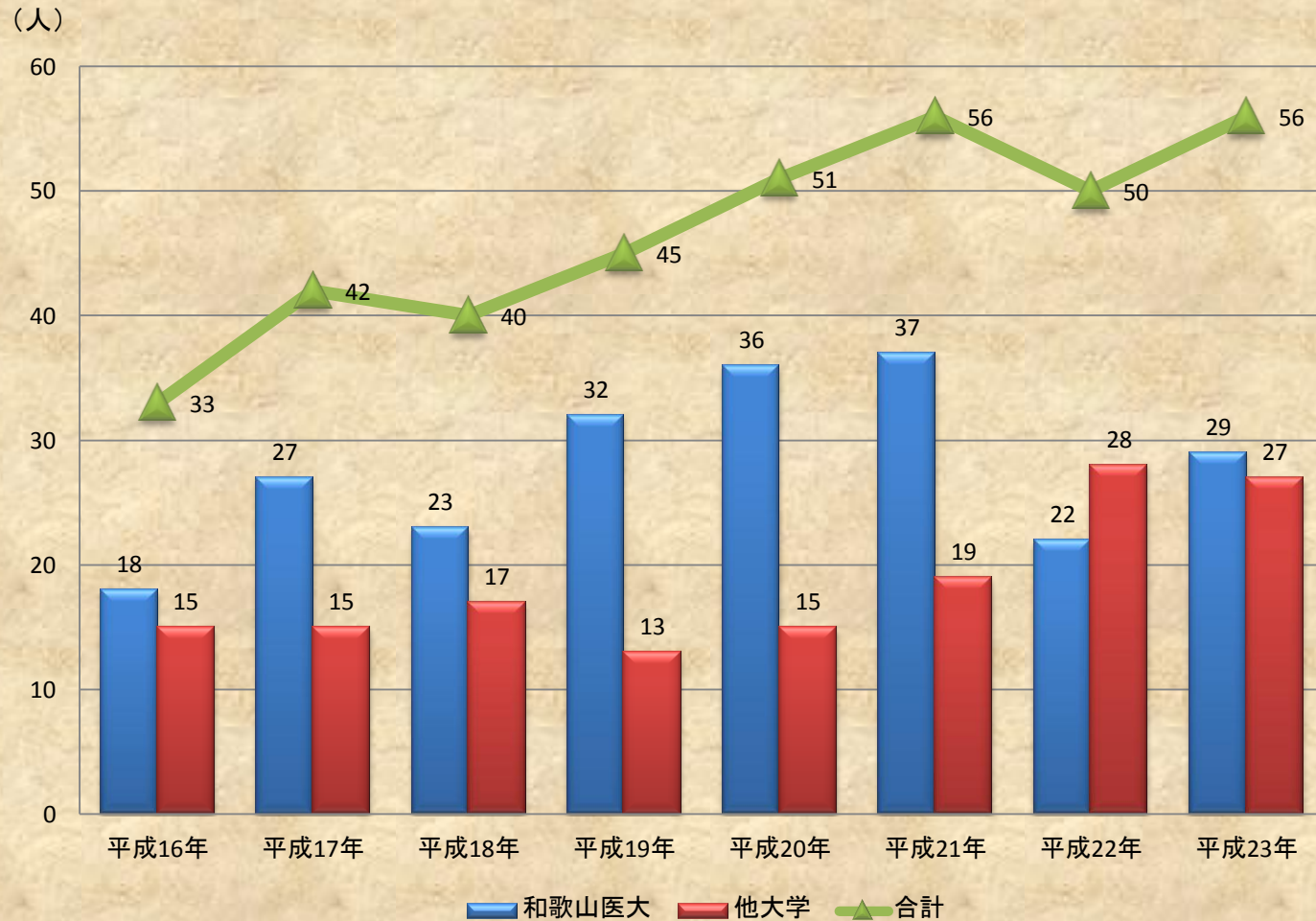
医師数の増員が成し遂げられたとしても、地域偏在や診療科偏在は解決するわけではない。

医学教育には莫大な国費が投じられていることを考えれば、特に、**地方の医学部入学者が、卒業と同時に都会に回帰する現状に対する何らかの制約を設けることも考慮すべきと考えられる。**

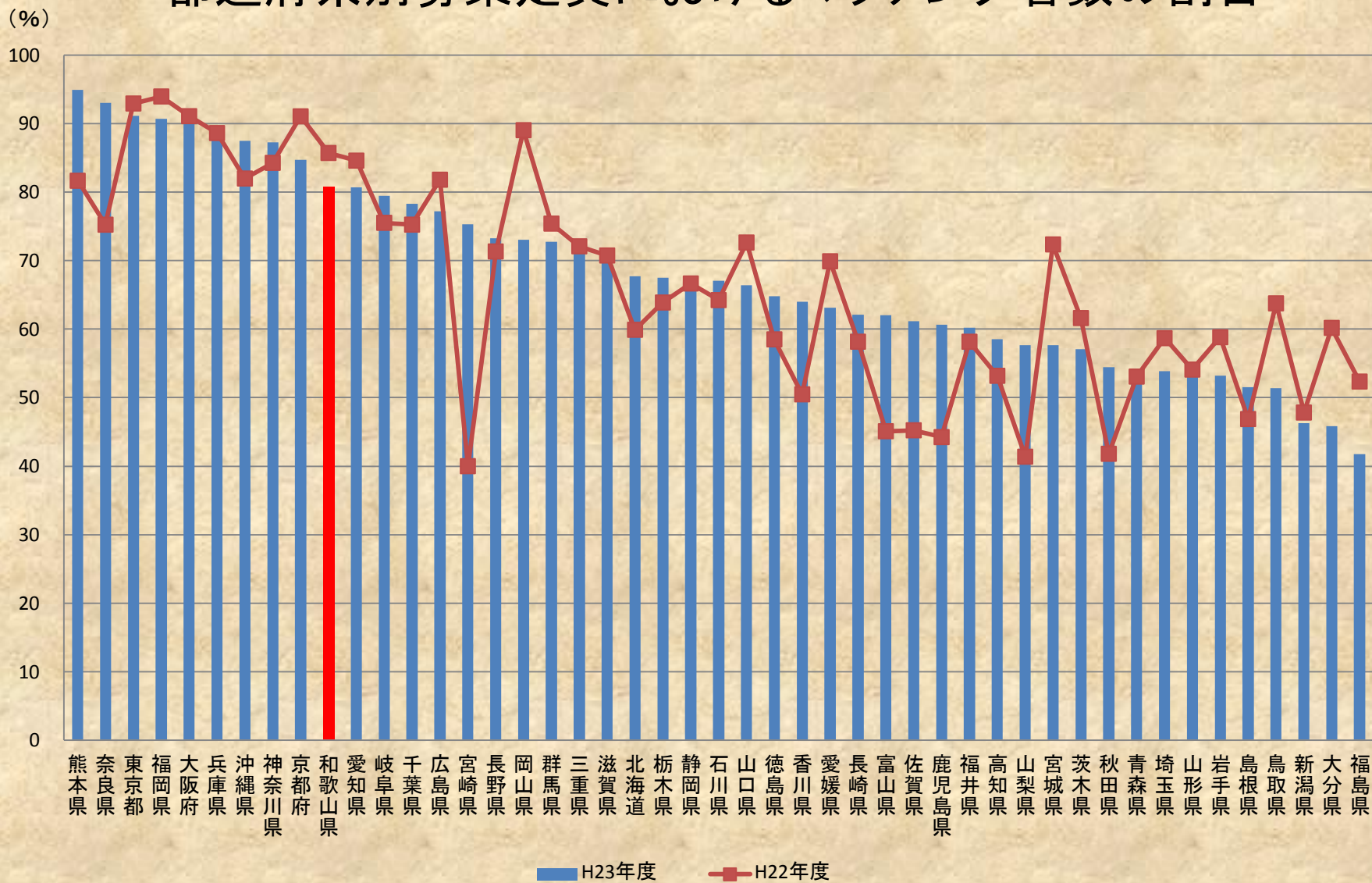
医学部入試における地域枠の一層の拡充、学費相当額の**奨学金とリンクさせた卒後の一定地域での診療(研修)の義務化**(返済免除の条件とする)なども考慮する必要があるだろう。

診療科の偏在については、本来職業選択の自由との整合性や診療報酬の加算あるいはドクターフィーの導入などの方策が優先されるべきであるが、**卒後の一定期間の研修に限って、専門分野別の研修医定数の導入、研修施設の地域配分、強力なインセンティブの付与などの施策**を考えることも一法と考える。

和歌山医大初期研修医数の推移



都道府県別募集定員におけるマッチング者数の割合



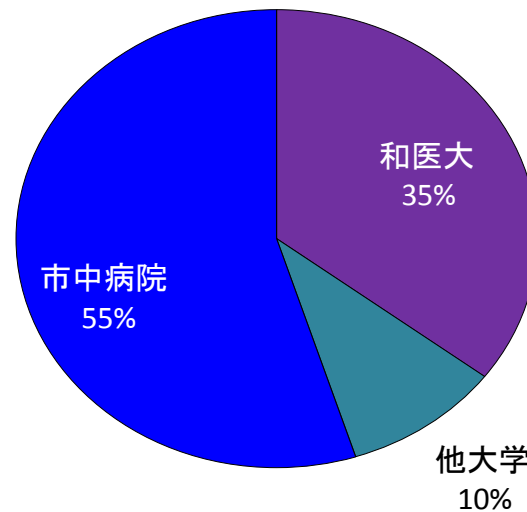
和歌山県立医科大学平成15年度卒業生追跡調査

(卒業時点)

■ マッチング先

和医大	18
他大学	5
市中病院	28
計	51

平成15年度卒業生マッチング先病院



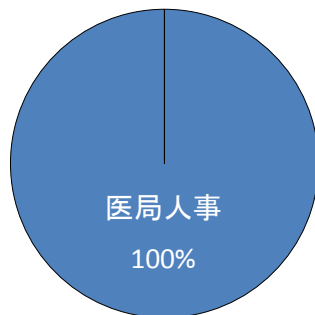
和歌山県立医科大学平成15年度卒業生追跡調査

(卒後8年＝H23年時点)

■ 大学病院にマッチングした卒業生のうち、平成23年度現在
医局人事による人事派遣で勤務先が決まっている者

医局人事	23
医局によらない人事	0

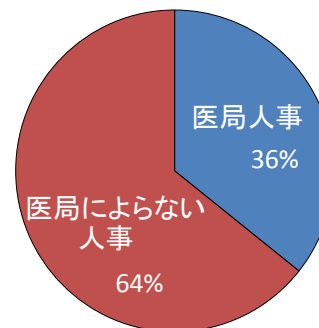
大学病院マッチング者



■ 市中病院にマッチングした卒業生のうち、平成23年度現在
医局人事による人事派遣で勤務先が決まっている者

医局人事	10
医局によらない人事	18

市中病院マッチング者



和歌山県立医科大学平成15年度卒業生追跡調査

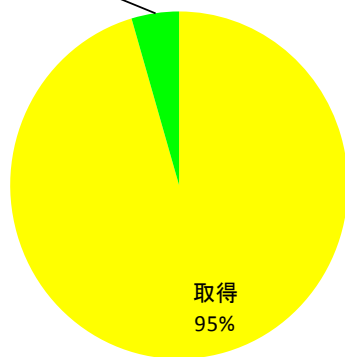
■大学病院マッチング者のうち、専門医等取得者

取得	21
未取得	1

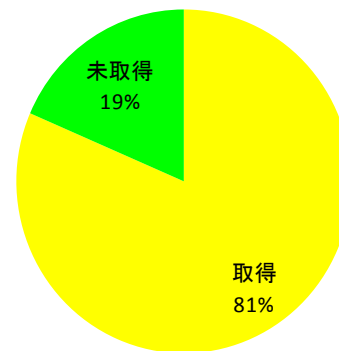
■市中病院マッチング者のうち、専門医等取得者

取得	22
未取得	5

大学病院マッチング者
未取得 5%

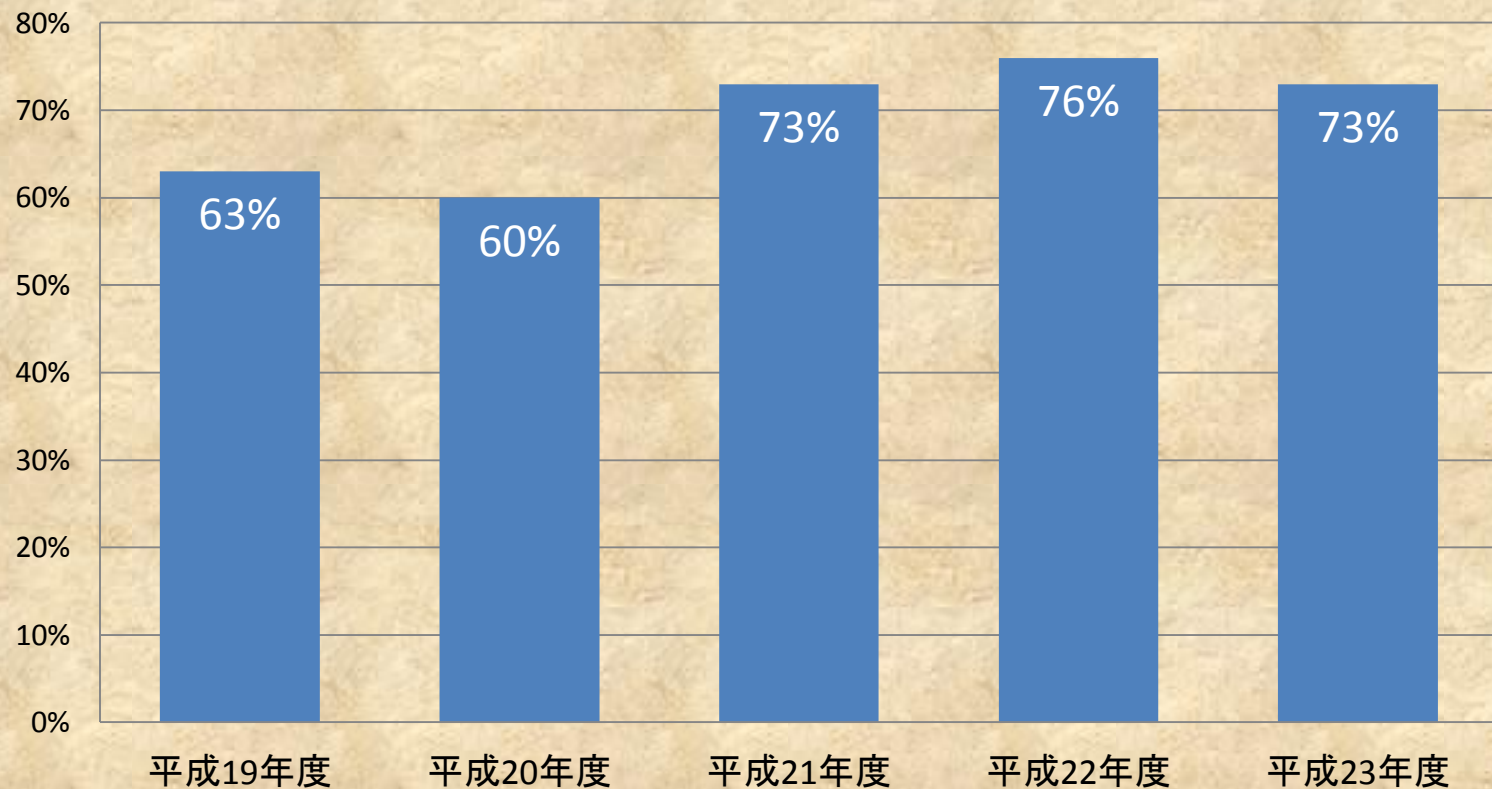


市中病院マッチング者

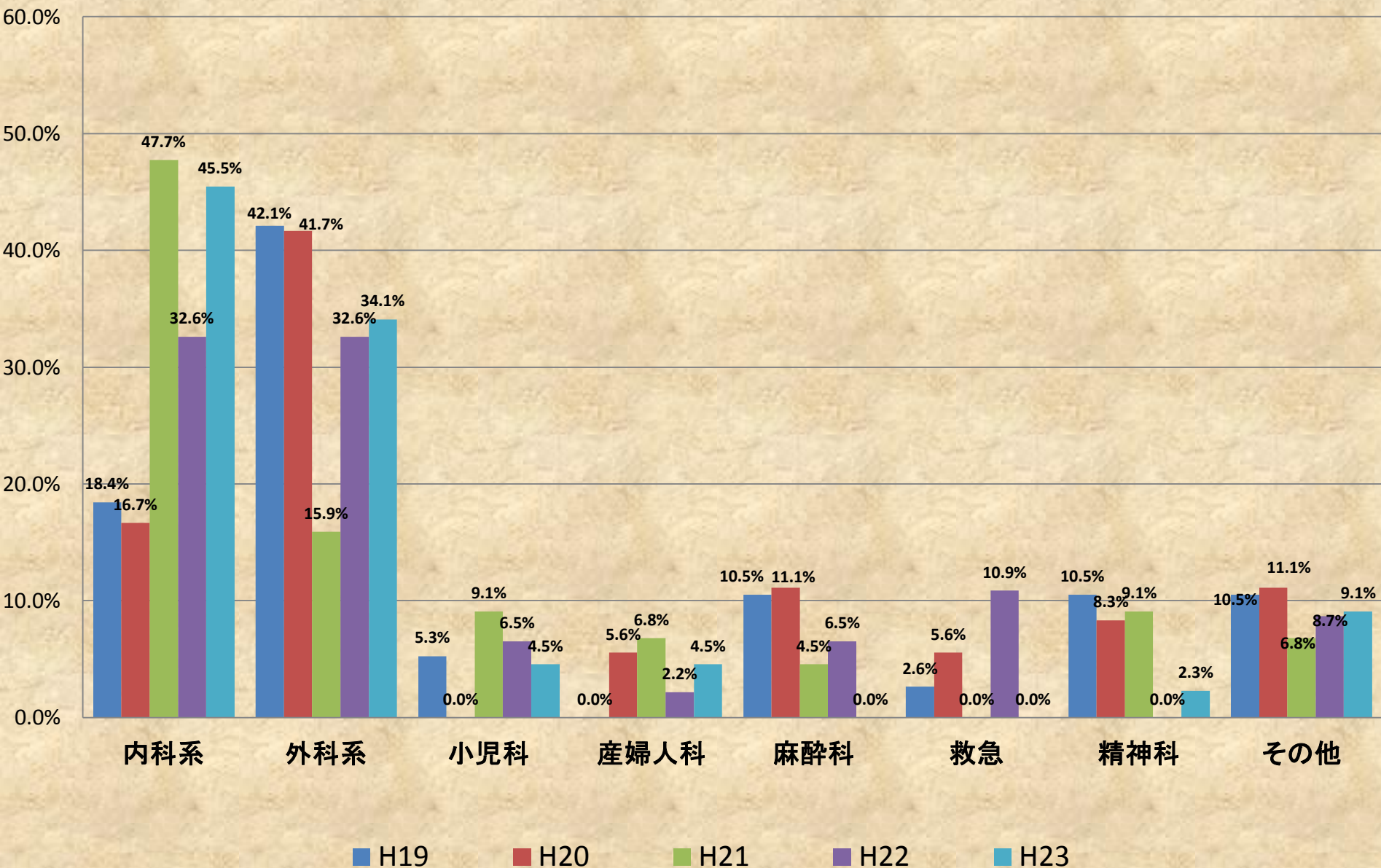


和医大の初期研修医が後期研修医に残った割合

本学の臨床研修修了者帰学状況(年度別)



本学の臨床研修修了者帰学状況(診療科別)



和歌山県立医科大学医学生・ 研修医の進路に関する意識

H23.4調査

和歌山県立医科大学卒後臨床研修センター

上野雅巳

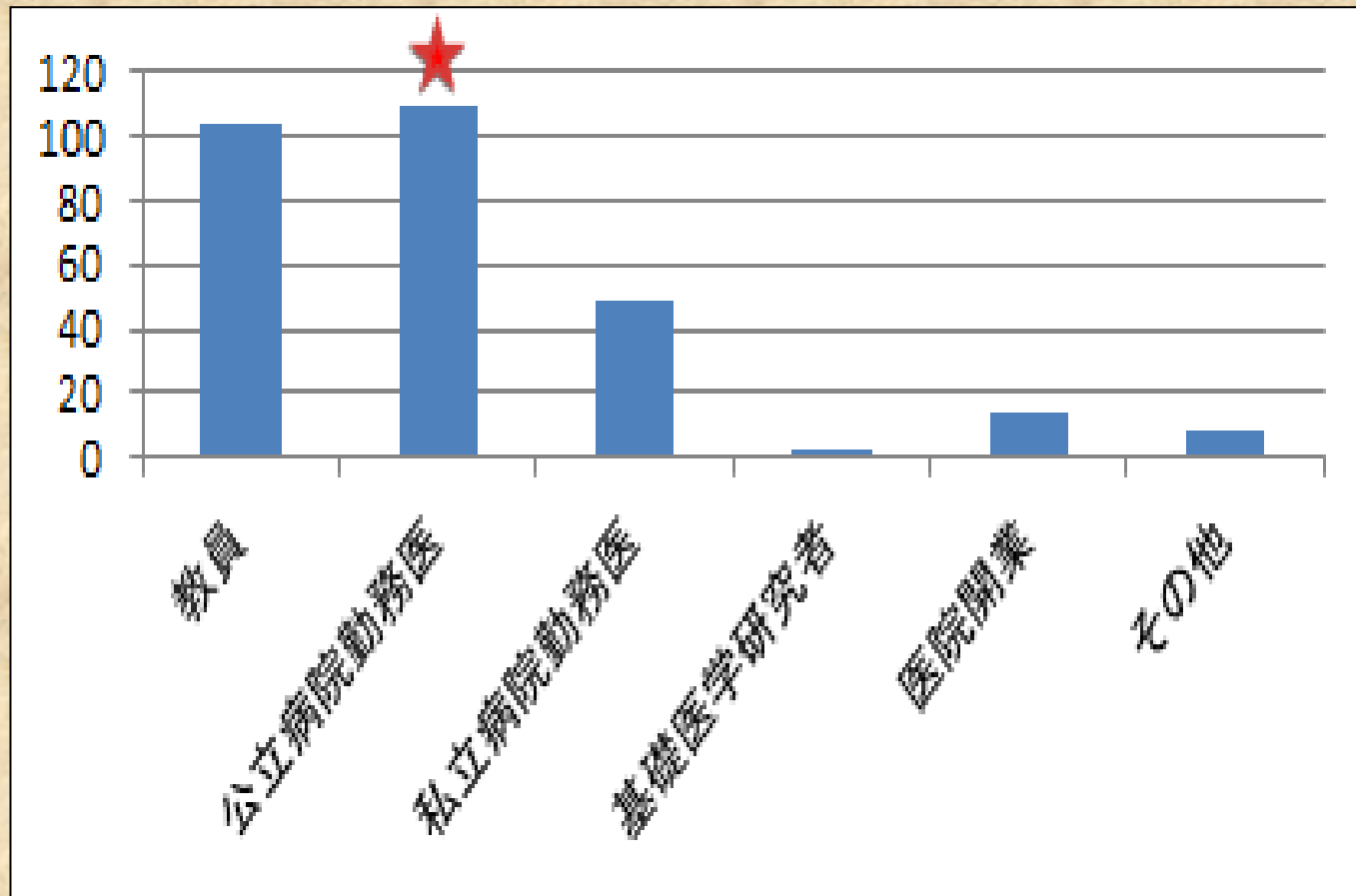
現時点で、10年後あなたはどのような診療形態の医療施設で勤務
 していきたいと考えていますか？（複数回答可能）

【表①】

	5年生	6年生	1年目研修医	2年目研修医	3年目医師
大学医学部勤務医(教員)	18	27	31	16	12
公立病院勤務医	26	22	19	19	23
私立病院勤務医	16	8	8	5	11
基礎医学研究者	2	0	0	0	1
医院開業	4	1	3	1	5
その他	1	1	2	0	4
合計	67	59	63	41	56

現時点で、10年後あなたはどのような診療形態の医療施設で勤務
していきたいと考えていますか？（複数回答可能）

【表①】



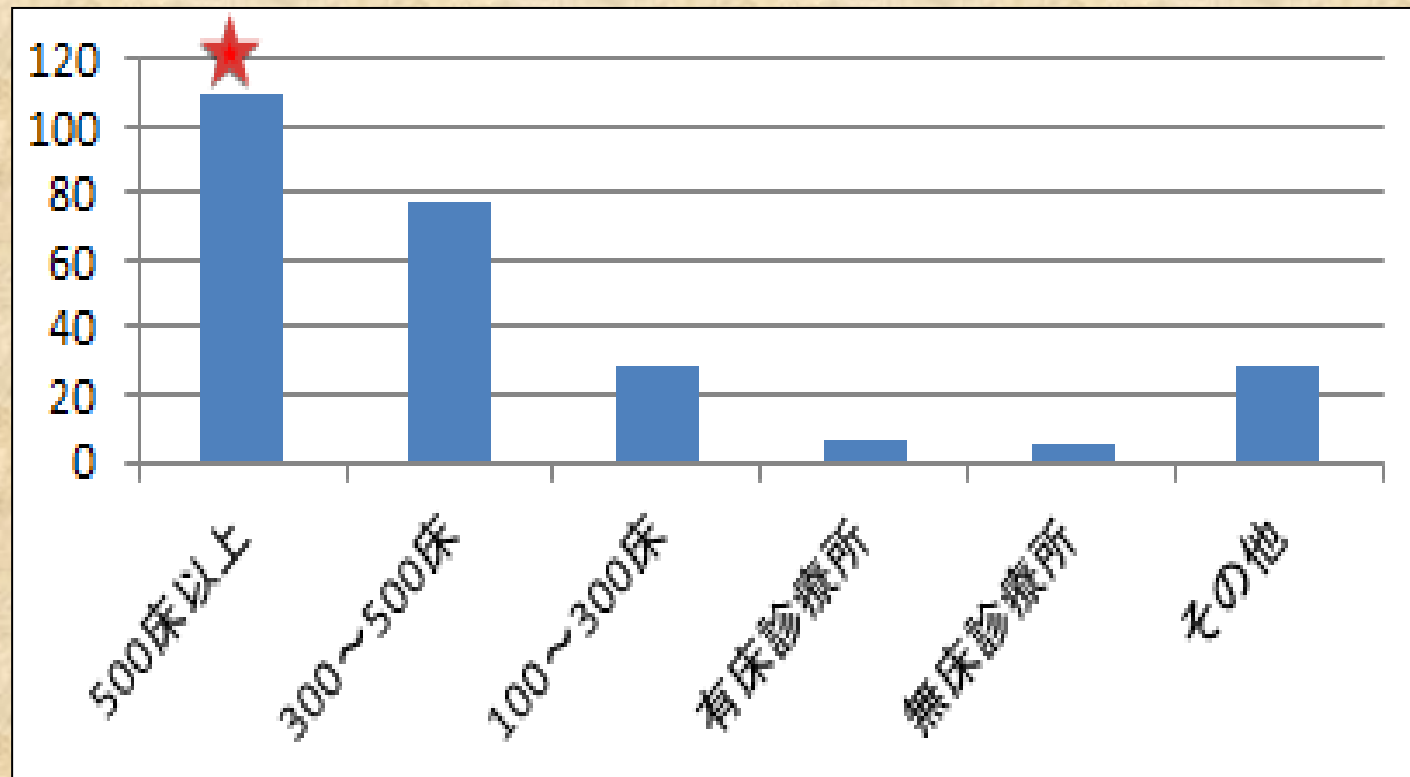
現時点で、10年後にあなたが勤務していきたいと考える医療施設の規模は、病床数で言うと、何床の医療施設ですか？

【図②】

	5年生	6年生	1年目研修医	2年目研修医	3年目医師
500床以上	22	34	25	16	13
300～500床	17	14	11	14	21
100～300床	7	3	7	5	7
有床診療所	3	1	0	0	2
無床診療所	0	0	1	1	3
その他、または、考えたことが無い	10	2	13	1	3
合計	59	54	57	37	49

現時点で、10年後にあなたが勤務していきたいと考える医療施設の規模は、病床数で言うと、何床の医療施設ですか？

【図②】



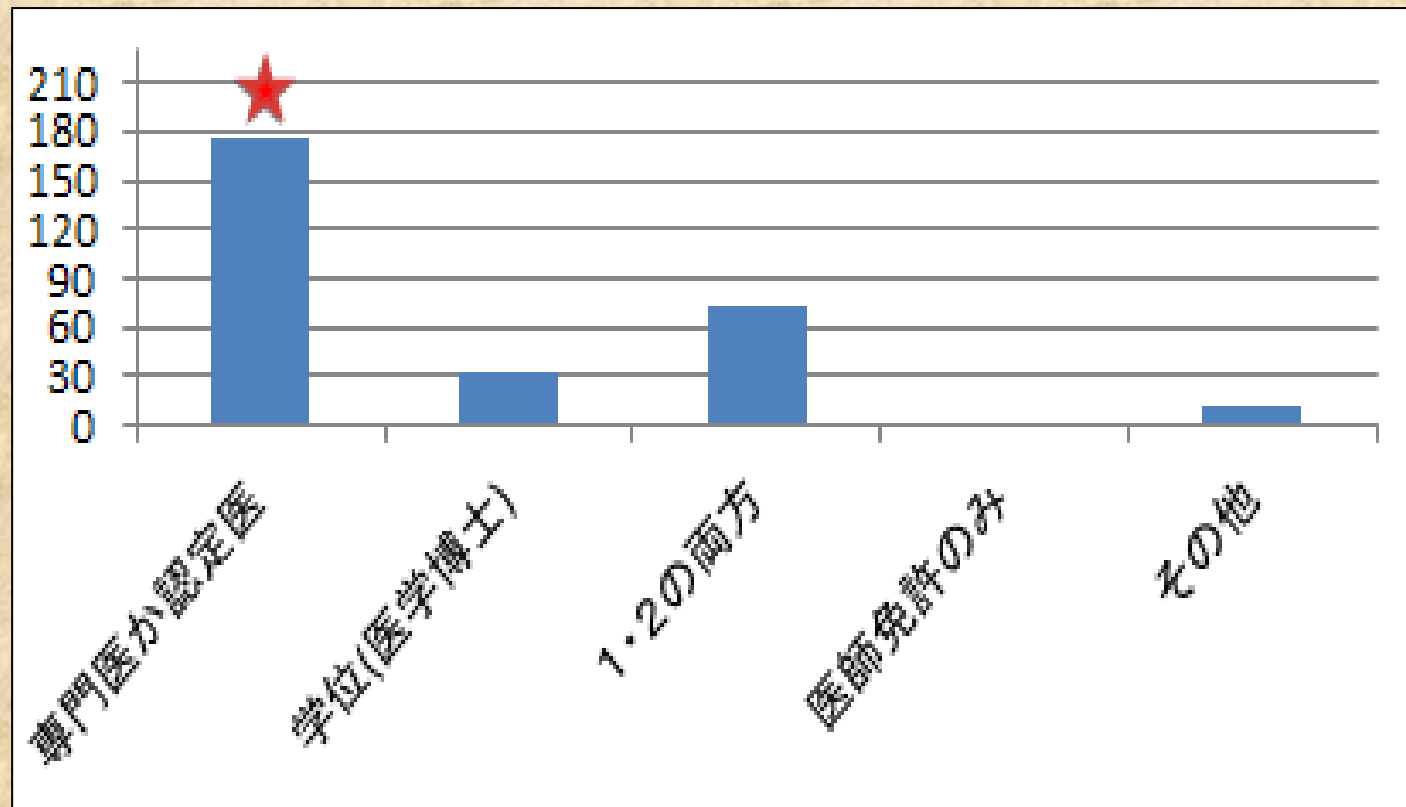
300床以上の病院勤務を希望する者が90%

医師経験10年以内に取得したいと考える資格
は何ですか？(複数回答可能)
【表③】

	5年生	6年生	1年目研修 医	2年目研修 医	3年目医 師
専門医または認定医	40	29	39	27	40
学位(医学博士)	7	8	5	6	6
1・2の両方	12	25	16	8	12
医師免許以外の資格を希望しない	0	1	0	0	0
その他、または、考えたことが無い	5	1	4	1	0
合計	64	64	64	42	58

医師経験10年以内に取り得したいと考える資格は何ですか？（複数回答可能）

【表③】



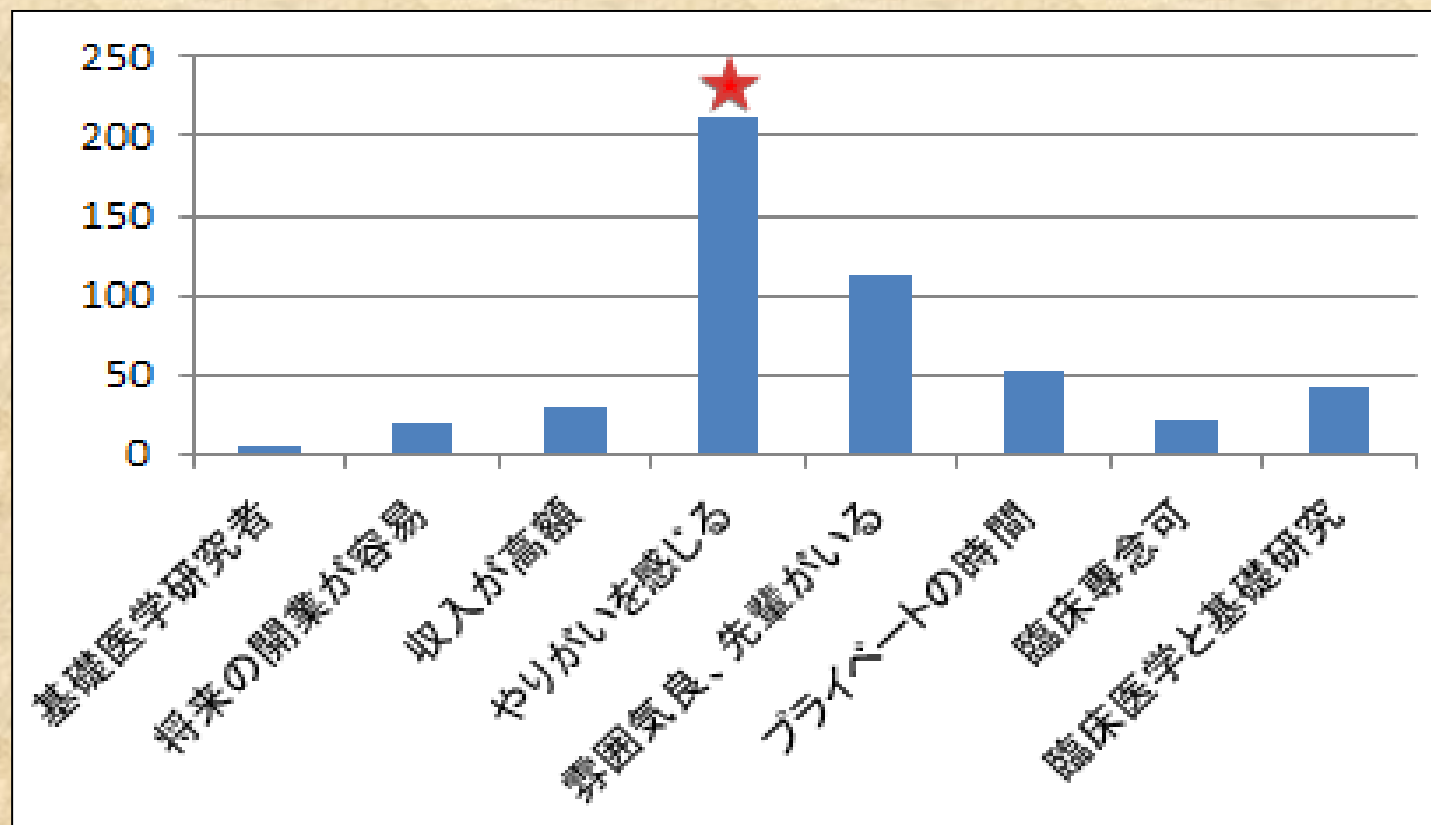
医師免許取得後の進路(職場選択)を考える上で重要と思う項目を選んでください(複数回答可能)

【図④】

	5年生	6年生	1年目研修医	2年目研修医	3年目医師
臨床医学を選ばない(基礎医学研究者)	1	1	0	1	1
その診療科を標榜した将来の開業が容易と聞いている	7	3	3	2	4
その診療科での勤務医としての収入が他の診療科より高額と聞いている	13	8	2	4	2
その診療科での勤務医としてのやりがいを感じる	46	47	48	30	41
その診療科の職場の雰囲気よさそう、あるいは知人(先輩など)が勤務している	22	30	31	17	13
その診療科での勤務がプライベートの時間を浸しにくいと聞いている、あるいはそう考える。仕事がキツくなさそう	15	10	11	11	6
臨床に専念出来ると聞いている。臨床の他に基礎研究のdutyが無いと聞いている	5	8	3	3	3
臨床医学だけでなく、基礎研究にも並行して従事できる機会があると聞いている	12	9	8	7	7
合計	121	116	106	75	77

医師免許取得後の進路(職場選択)を考える上で重要と思う項目を選んでください(複数回答可能)

【図④】



海外留学について、どう感じていますか？

(複数回答可能)

【表⑤】

	5年生	6年生	1年目研修 医	2年目研修 医	3年目医 師
自分の人生設計の中では有益とは思にくい	6	5	4	5	9
海外の先端医療に触れるために、是非、海外留学を経験したい	15	20	17	9	10
海外の研究施設で最先端の基礎研究に従事する 経験をしたい	5	5	3	4	3
職場でのキャリアアップに、海外留学は必要と聞い ているので、是非したい	11	13	11	3	6
外国での実生活の経験をしてみたい	10	15	10	10	15
その他、または、考えたことが無い	14	9	22	13	12
合計	61	67	67	44	55

海外留学について、どう感じていますか？

(複数回答可能)

【表⑤】

